

わが

だれもが住みたい、住み続けたい 選ばれるまちづくりを市民の皆さまとともに

都市と自然が共存するまち 「富士見市」

富士見市は埼玉県の南東部、都心から30km圏内に位置し、市名の通り、美しい富士山を市内各所からはるかに望むことができます。

市内北東部には荒川、南東部に



富士見市内から望む富士山

は柳瀬川が流れ、中央部の新河岸川を挟んで、西側には良好な市街地が整備され、東側には広大な田園地帯が広がる、都市と自然環境が調和した住みやすいまちです。

江戸時代には新河岸川を活用した船運の要所として栄え、大正初期の東武東上線開通を契機に宅地化が進み、首都圏のベッドタウンとして人口が増加し、住宅都市として発展を遂げてきました。

活気とにぎわいあふれる まちづくり

平成29年に市制施行45周年記念事業として開催された、「アイドルグループ」もいろいろクロージャーZ」のコンサートは、全国の自治体として初めてプロダクションとの共催という形で実現しました。メンバーのひとりが小学生時代に本市



市制施行45周年記念事業として開催した「もいろいろクロージャーZ」コンサート

に住んでいたことが縁となり、「地元の方々の前で歌いたい」という一言をきっかけに、運動公園に素晴らしい特設ステージが設営され、2日間で約4万人もの皆さまにコンサートを楽しんでいただきました。本市を全国に広く発信するという点では、開催に伴うPR効果は計り知れないものとなりました。

新たな富士見ブランドの 創造と発信

平成4年に市制施行20周年を記念して作られた純米吟醸酒「縄文海進」は、地元産のお米を使用した日本酒として市民の間でも親しまれています。その縄文海進の原酒に地元産の青梅を漬け込んで作られたのが梅酒の「梅恋花」です。また、市内の和菓子店が梅恋花の青梅を使った和菓子「梅の菓」を作り出すなど、新たな連携のもとに、富士見ブランドの創造が進んでいます。



純米吟醸酒「縄文海進」（左上）梅酒「梅恋花」（右上）「梅の菓」（手前）

未来を担う子どもを はぐくみ、共に育ち合う まちづくり

子どもたちの知的好奇心をはぐくみ、学ぶ力を伸ばしていくことを目的に、地域の大学や市民団体などと連携し、3つの子どもも大学を開校しています。スポーツや文化芸術のプロフェッショナルや各分野の第一線で活躍されている方々を講師として迎え、普段の学校では体験できないようなさまざまな経験を子どもたちに提供しています。



ロンドン五輪金メダリストの小原日登美氏による「キッズレスリング教室」

また、今年度からは、ロンドン五輪女子レスリングの金メダリストで富士見市PR大使の小原日登美さんを講師に迎え、小学生を対象にしたキッズレスリング教室を開催しています。基礎的な体力づくりとともに、スポーツを通してさまざまな経験をさせた小原さんか

ら、勝ち負けだけにとらわれず、何事にも一生懸命に取り組むことの大切さを教わります。この教室から将来オリンピックに出場するような選手が育ってくれたらとても嬉しいことです。

自分らしく希望を持って 暮らせるまちづくり

すべての子どもたちと子育てする親たちが「夢に向かってチャレンジ」できるよう、子どもも未来応援センターを設置し、市民の皆さまの子育てを応援しています。センターでは妊娠期から子育て期に至るまで、きめ細やかで切れ目のない支援体制を実現しています。

併せて、「夢つなぐ富士見プロジェクト+（プラス）」として、全国でも問題となっている、子どもの貧困対策にもいち早く取り組み、さまざまな可能性を持った子どもたちが、公平な環境の下、将来に向かって力強く歩んでいけるような支援をしています。

障がいのある方が暮らしやすい地域社会をみんなで作っていくこと、[あいサポート運動]にも力を入れていきます。この運動を通じて、多くの市民の皆さまが、「あい

サポート」となり、障がいのある方に温かく接し、障がいのある方が困っているときにちよつとした手助けができるような地域づくりを進めています。

住んでよかったと 感じられるまちづくり

全国的に人口減少が進む中、本市では人口が引き続き微増傾向に

あり、間もなく、11万1000人に到達しようとしています。平成29年4月にスタートした第5次基本構想後期基本計画に位置付けた、本市の持つ魅力や優位性を最大限に生かした施策を着実に進めることで、市民の皆さまが「富士見市に住んで本当によかった」と心から感じていただけるよう全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 19・77km²
- ◆ 人口 11万886人
- ◆ 世帯数 5万545世帯

〔将来都市像〕ひととまちがキラリとかがやく市民文化交流都市
く人と人との絆と和 地域が主役のまちづくり

〔まちの特徴〕都心へのアクセスが便利な市街地と広大な田園地帯が広がる自然豊かな環境に恵まれた、都市と自然が共存するまち

〔特産品〕米、梨、苺、かぶ、ほうれ



富士見市長
星野光弘



〔観光〕水子貝塚公園、難波田城公園、びん沼自然公園、市民文化会館キラリ☆ふじみ、せせらぎ菖蒲園（山崎公園）
〔イベント〕東大久保菜の花フェスタ、難波田城公園まつり、つるせよさこい祭り、富士見ふるさと祭り、ふじみマーケット、富士見市新春縄文マラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人と地域が輝き 未来へつながらるまち田辺

和歌山県第2の都市 「田辺市」

田辺市は、紀伊半島の南西部で、和歌山県の南部に位置し、和歌山県全体の約22%を占め、近畿で最も広大な市域を有するまちです。この広大な市域のうち約89%を森林が占め、平坦地は9%と少



世界遺産「熊野古道」高原からの眺望

なく、海岸部からすぐ山岳地帯へ移行しているという地理的状况

で、海岸部の温暖多雨な太平洋気候から、紀伊山地に属する山間地の寒暖の差が激しい内陸型の気候まで変化に富み、年間平均気温は13・1～17・1℃、年間降水量は1780～2860mm、年間日照時間は1343～1995時間と、同じ市内でも大きく地域差が見られるのが特徴です。

本市は、古くから先人たちのたゆまぬ努力によって、県南部の政治、経済、文化の中心地として栄え、今日では高速道路を核とする道路交通網をはじめ、医療や福祉の分野においても多くの都市的基盤を有するなど、県下第2の都市として、さらには、紀南の中心都市としての役割を担ってきました。

また、市域には、美しい海・山・

川の大自然をはじめ、世界遺産に

登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される歴史や文化、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、温暖な気候と風土にはぐくまれた特産物、中でも、養分に乏しい礫質斜面を活用して、高品質な梅を持続的に生産してきた当地域独特の農業システムが「みなべ・田辺の梅システム」として世界農業遺産に登録され、そこではぐくまれた「南高梅」や「備長炭」など、人々の心と身体を癒やす豊かな自然環境や、多彩で魅力的な地域資源を数多く有しています。

世界遺産を活用した まちづくり

平成28年10月24日に、当市内の

闘雞神社と4古道（北郡越・長尾坂・潮見峠越・赤木越）の5カ所が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されました。

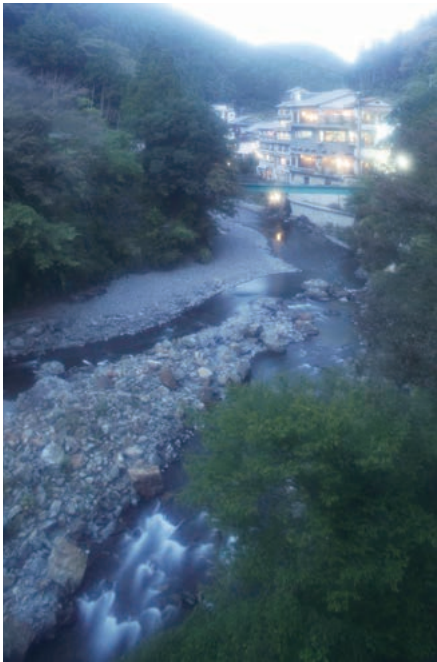
このうち、闘雞神社については、中心市街地にあり、また、その周辺地域を対象として魅力あるまちづくりを行うことを目的に、国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」を活用した事業に取り組んでいます。これは、全国で10都市しかないモデル地区の1つに選定されたもので、このことにより、世界遺産追加登録を契機としたまちづくりの取り組みが加速することとなりました。

この事業は、景観の優れた地域資源を有していることや、外国人観光客を呼び込める観光資源を有していることが要件で、建築物の外観修景などの景観を整備する事業を面的に整備することが可能で、平成29年度から3年間で目に見える形でまちの景観を刷新させ、官民一体となった景観まちづ

くりの実施体制の構築や、観光地としての魅力向上などの地域活性化を図るものです。

主な事業としては、本市の玄関口でもあるJR紀伊田辺駅の駅舎および駅前商店街の外観修景整備、外国人旅行者の免税手続きや観光案内ができる施設の整備、闘雞神社周辺地域を訪れた方が休憩でき、さまざまな情報を得ることができ、さまざまな情報を得ることができ、闘雞神社に縁の深い寺院である大福院の保存修理、闘雞神社参道から延びる道路の舗装美化などを予定しており、これらによって世界遺産にふさわしい街並みを形成し、交流人口の増大による地域活性化を図ります。

さらに、景観まちづくり刷新支援事業の関連事業として、本市の



日本三美人の湯「龍神温泉」

偉人の一人である合気道の創始者、植芝盛平翁の顕彰館としての機能と武道館の機能を併せ持つスポーツ文化交流施設の整備を予定しており、合気道の愛好者が国内だけではなく海外からも訪れ、なお一層交流人口の増大に寄与するものとして期待しています。

また、街並みデザインガイドラインの策定を予定しており、事業終了後も引き続き世界遺産にふさわしい街並みが、ガイドラインによって維持および形成されるよう誘導していくことで、本市の魅力を決める世代に引き継いでいきたいと考えています。

人と地域が輝き、未来へつながるまちを目指して

本市は、豊かな自然や歴史、文化など人々の心と体を癒やす地域資源と都市的機能を有機的に結びつけ、また人と人、地域と地域、産業と暮ら

しのつながりを深めながら、紀南地域の中核都市としての発展を図り、存在感のある「新地方都市」を築き上げてきました。

今後も一人一人が豊かな自然や歴史、文化、そしてその中で大きくまれてきた田辺らしさを大切にしつつ、一人一人の活動を地域の活性化につなげ、未来へとつながる持続可能なまちづくりを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 1026.91km²
- ◆ 人口 7万5491人
- ◆ 世帯数 3万5466世帯

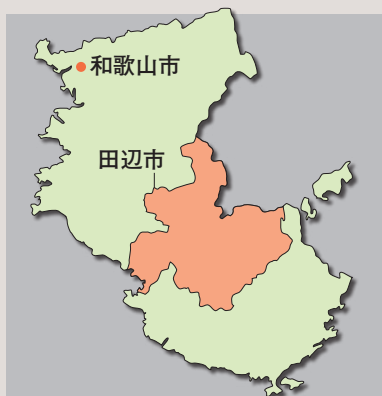
〔将来都市像〕人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺

〔まちの特徴〕美しい大自然をはじめ歴史や文化、温泉郷、そして海山の幸など、魅力的な地域資源を数多く有するまち

〔特産品〕梅、みかん、紀州備長炭



田辺市長
真砂充敏



〔観光〕田辺扇ヶ浜海水浴場、世界遺産である闘雞神社や熊野本宮大社を含む熊野古道、日本三美人の湯「龍神温泉」・日本最古の湯「湯の峰温泉」などの温泉郷

〔イベント〕紀州石神田辺梅林（2月）、熊野本宮大社例大祭（4月）、田辺祭（7月）、弁慶まつり（10月）、田辺・弁慶映画祭（11月）



田辺扇ヶ浜海水浴場

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

水・まち・自然 エンジョイ！ よなご

自然豊かな山陰の商都
暮らしやすさ日本一！

米子市は、鳥取県の西部、山陰のほぼ中央に位置し、南東に中国地方最高峰の大山だいせん、北に日本海、西にコハクチョウ渡来南限地でラムサール条約登録の中海を有する、豊かな自然環境に恵まれたま



長くて過酷な熱いレース「全日本トライアスロン皆生大会」

ちです。

また、道路、鉄道、空港などの利便性も高く、古くから地域の交通結節点・宿泊拠点、人の行き来が盛んな「山陰の商都」として栄えてきました。そのため、米子市民は明るく開放的で、外からの移住者を快く受け入れる気質があります。

日本海に面して「海に湯が湧く」皆生温泉は、「トライアスロン日本発祥の地」であり、昭和56年から毎年開催している「全日本トライアスロン皆生大会」には全国各地から鉄人が集結し、過酷な熱いレースが繰り広げられます。

市民にとっても、春夏秋冬を通じて海水浴、登山、サイクリング、スキーなど日常生活の中でレジャーを楽しめる環境が整っています。日本海に面した弓ヶ浜海岸

は「キス釣りの聖地」として知られており、毎年7月には投げ釣りの全国大会が開催されるほどです。また皆生温泉に近接して、潮風と青松に包まれたシーサイドコース「米子ゴルフ場」があり、気軽にゴルフを楽しむことができます。

レジャーのほかにも、米子城跡や飛鳥時代後期の遺跡上かみよどはいし淀廃寺跡、彫刻ロードがあり、日常風景の中で歴史、文化、芸術を身近に感じることができます。

大山山麓の地下水を原水とする水道水は、ブナ原生林の豊かな土壌にはぐくまれてミネラルを適度に含んでおり、それをペットボトルにした「よなごの水」は、まるでやかでのどごしがよく、水の専門家に「激ウマ」と紹介されました。本市の特色として、鳥取大学医



海を臨む天空の城 国指定史跡「米子城跡」

学部附属病院をはじめ医療機関が充実していることが挙げられ、高齢者にも子育て世帯にも優しい環境です。企業、商店等が集積する市街地と住宅地や農地がある郊外など、同じ市内でも地域により特徴があり、それらがうまく融合しているところが本市の良いところだと思えます。

これらさまざまな魅力があることから、本市は「暮らしやすさ日本一！」との評価（経済産業省生活コスト「見える化」システムによる評価）をいただいたところです。

にぎわいある まちづくりに向けて

わが国は、少子高齢化、人口減少社会の到来という歴史的な転換期を迎えており、本市においても例外ではありません。その中でも、自然豊かな環境や暮らしやすさなど本市が持つ魅力を生かしながら、まちなかも郊外もすべての地域において、その地域が持つさまざまな可能性を開花させ、市全体が、ダイナミックに盛り上がりつついくような、にぎわいのあるまちづくりを目指しています。

現在、本市の玄関口であるJR米子駅において、北側と南側をつなぐ米子駅南北自由通路等整備事



“海に湯が湧く” 皆生温泉

業に取り組んでおり、平成34年度に完成予定です。この事業により、民間投資の可能性を引き出して駅周辺の活性化を図り、また、まちなかの公共交通をさらに便利にし、郊外からまちなかに人が集まる仕掛けをつくり、さらなるにぎわいを創出したいと考えています。

皆生温泉の観光振興では、日本海に面した開放的な風情ある温泉地としての魅力を高め、面として楽しめる温泉地、選ばれる温泉地を目指し、町並みの整備を推進しています。また、皆生温泉にある米子市観光センターの機能強化を図り、エコ・スポーツツアーデスク設置や郷土芸能公演の支援なども行うこととしています。交流人口の拡大と宿泊客の増加を図り、皆生温泉をさらに活気ある観光地にしていきたいと考えています。

また本年、出雲国風土記に記された日本最古の神山である大山が開山1300年の節目の年を迎えます。官民一体となって伯耆国「大山開山1300年祭」を開催し、大山の歴史、文化、食など多様な魅力を掘り起こし、地域の魅力を内外に向けて発信、活性化につなげていきますので、皆さま

ひ足をお運びいただき、大山はもとより本市のさまざまな魅力をご堪能ください。

心豊かに「住んで楽しいまちづくり」

私は、平成29年4月に市長に初当選しました。「住んで楽しいまちづくり」が私の市政運営の理念ですが、「一度きりの人生を楽しむ」というのは私の人生観でもあ

ります。「いかに経済的に豊かになるか」が20世紀の日本の目標ならば、21世紀の日本では、「いかに心豊かに生活を楽しめるか」を目標にしていかなければならないと感じています。

自然豊かなこの米子のまちは、可能性の宝庫であり、その可能性を最大限に引き出すことが、私に課せられた使命であると胸に刻み、日々職務にまい進していきます。

プロフィール

- ◆ 面積 132.42 km²
- ◆ 人口 14万8929人
- ◆ 世帯数 6万6316世帯

〔将来都市像〕住んで楽しいまち

〔まちの特徴〕日本海、中海、大山に囲まれた自然豊かな山陰の商都

〔市町村合併〕平成17年3月31日「米子市」「淀江町」による新設合併

〔特産品〕白ねぎ、梨、柿、甘藷、にんじん、プロッコリー、どんぐり製品、

弓浜餅、和傘、清酒稲田姫、大山ハム、大山どり、どら焼き

〔観光〕皆生温泉、米子城跡、旧加茂川沿い下町周辺、米子水鳥公園、米子市立山陰歴史館、上淀麿寺跡、天の真名井

〔イベント〕米子つつじまつり、皆生・大山SEA TO SUMMIT、全日本トライアスロン皆生大会、米子がいな祭



米子市長
伊木隆司



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。